日本 Android の会・福祉部への招待

社会に役立つアプリを作ろう

日本の福祉機器の世界は，見た目がよくない・機能は時代遅れ・高価で購入しづらい……という長年の状況から，なかなか脱出できずにいます．この状況を変えてゆくために，Androidには何ができるでしょうか?

日本Androidの会・福祉部 世話人
（みわ よしこ，丸山不二夫，飯塚康至）

「日本Androidの会・福祉部」誕生

「日本Androidの会・福祉部（以下，福祉部）」は，2011年1月9日の「Android Bazaar and Conference 2011 Winter（ABC）」の場で誕生したばかりの，Androidを利用して福祉を実現しようという新しい部会です．

「日本Androidの会」メーリングリストでは，2010年ごろから時折，福祉機器や福祉機器開発の話題で活発な議論が行われていました．この流れは自然に，福祉部設立へと結び付くことになりました．2011年３月現在，福祉部メーリングリストの参加者は200名を超えています．また，福祉部の活動には各方面から熱い注目と期待が寄せられており，４月には，NHK教育テレビの番組「福祉ネットワーク」で紹介されました．

筆者たちは，世話人という立場で福祉部の運営にかかわっています．本稿では，福祉部の活動とその背景を紹介し，福祉に役立つアプリの例を紹介します．

使えれば十分ですか？　福祉機器

筆者の一人，みわよしこ は，2000年ごろから，組み込みシステムを主な守備範囲として著述活動を続けています．そんな筆者自身，福祉機器のヘビー・ユーザです．肢体不自由のため，外出時はほぼ常時，電動車椅子を使用しています．電動車椅子をはじめとする福祉機器は，公費による支給を受けています．

超高齢化社会となる日本では，福祉機器の市場は拡大してゆく一方でしょう．組み込みシステムの未来にとっても，福祉機器の今後は注目されるところです．しかし筆者は，福祉機器のカタログや展示会に対して「見たくない」「行きたくない」と感じてしまいます．少なくとも，福祉機器の数々を見て，カッコいい！ 楽しそう！ 使ってみたい！ と心踊ることは，ほとんどありません．また，自分のような社会人の障害者の存在はあまり考慮されておらず，「障害者＝福祉や介護のお世話になるばかりの人」という前提のもとに機器開発を行う企業が多いので，展示会に行くたびにうんざり・げんなり，という気分になってしまいます．

日本の福祉機器の進歩を妨げているもの

日本は現在のところ，先進国の一つという位置にあります．昔のような「ものづくり大国」ではなくなりつつありますが，先端デジタル・ガジェットに対する市民の関心も高く，優れた製品が生み出される土壌となっています．

しかし，福祉機器には，「飽和市場だが，買い替え需要を生み出すために必要性のない新機能も追加され，見た目のクールさが追求され，宣伝され，競争的に価格設定され，販売され，購入される」ということはありません．カッコいい，ワクワクする，という感情が伴う製品でなくとも，価格が高めに設定されていても，それでも一定数は売れてしまうのが福祉機器です．購入する人々は，その製品を必要としているので，若干の無理をしてでも購入します．どうしても自費での購入が困難な場合には，公費支給の可能性を探ることになります．

また，機器によっては，通常の民生機器では考えられないほどの耐用年数が要求されます．この傾向は，公費支給